

寛永行幸

かんえいぎょうこう

2026年、京都に新しい祭りが誕生します。

寛永行幸四百年祭



江戸時代のはじめ、寛永3（1626）年9月6日。
人々が「平和」を実感し、「文化」が花開いた瞬間がありました。
戦国の世を乗り越え、日本各地から大名が京都に集合し、
徳川幕府が威信をかけて、天皇を5日間にわたってもてなした
一大イベント、寛永行幸が令和の世によみがえります。

四百年祭



寛永行幸四百年祭実行委員会

寛永
行幸

《報道関係者お問い合わせ先》

「寛永行幸四百年祭」広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

TEL：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 EMAIL：kaneigyoko400@tm-office.co.jp

寛永行幸四百年祭

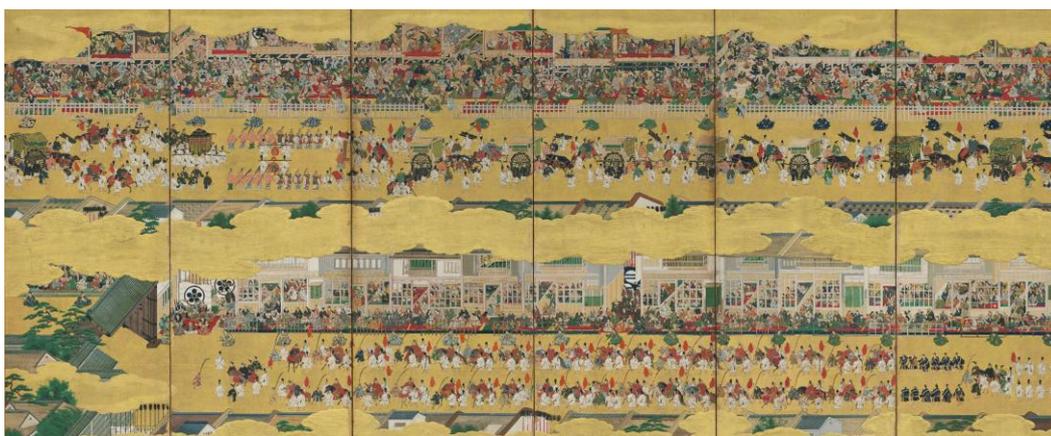
「寛永行幸四百年祭」とは

「寛永行幸（二条城行幸）」は、寛永3年（1626）、徳川幕府が後水尾天皇を二条城に迎え、5日間に渡ってさまざまなおもてなしを行った、江戸時代を通じて最大級ともいえる行事です。後水尾天皇、中宮で徳川秀忠の息女和子、公家衆ら朝廷方と、3代将軍徳川家光と全国の大名家ら幕府方、総勢約9,000人の大パレードは、大坂夏の陣後の公武融和と平和の時代の到来を世に知らしめ京都の町を熱狂させました。また、この華やかな行幸が行われた時代は、学問・書跡・絵画・工芸など多様なジャンルで新趣に富んだ作品が生まれ、後に寛永文化と称される美意識が切り開かれることとなりました。

2026年、「寛永行幸」から400年の節目を迎えるに当たり、オール京都の組織である「文化庁連携プラットフォーム」のプロジェクトとして、「寛永行幸」の行事を再現し、当時の京都で花開いた「寛永文化」を振り返る記念祭「寛永行幸四百年祭」を実施します。



元離宮二条城・二の丸御殿



京都市指定文化財《二条城行幸図屏風》左隻 江戸時代・17世紀 泉屋博古館

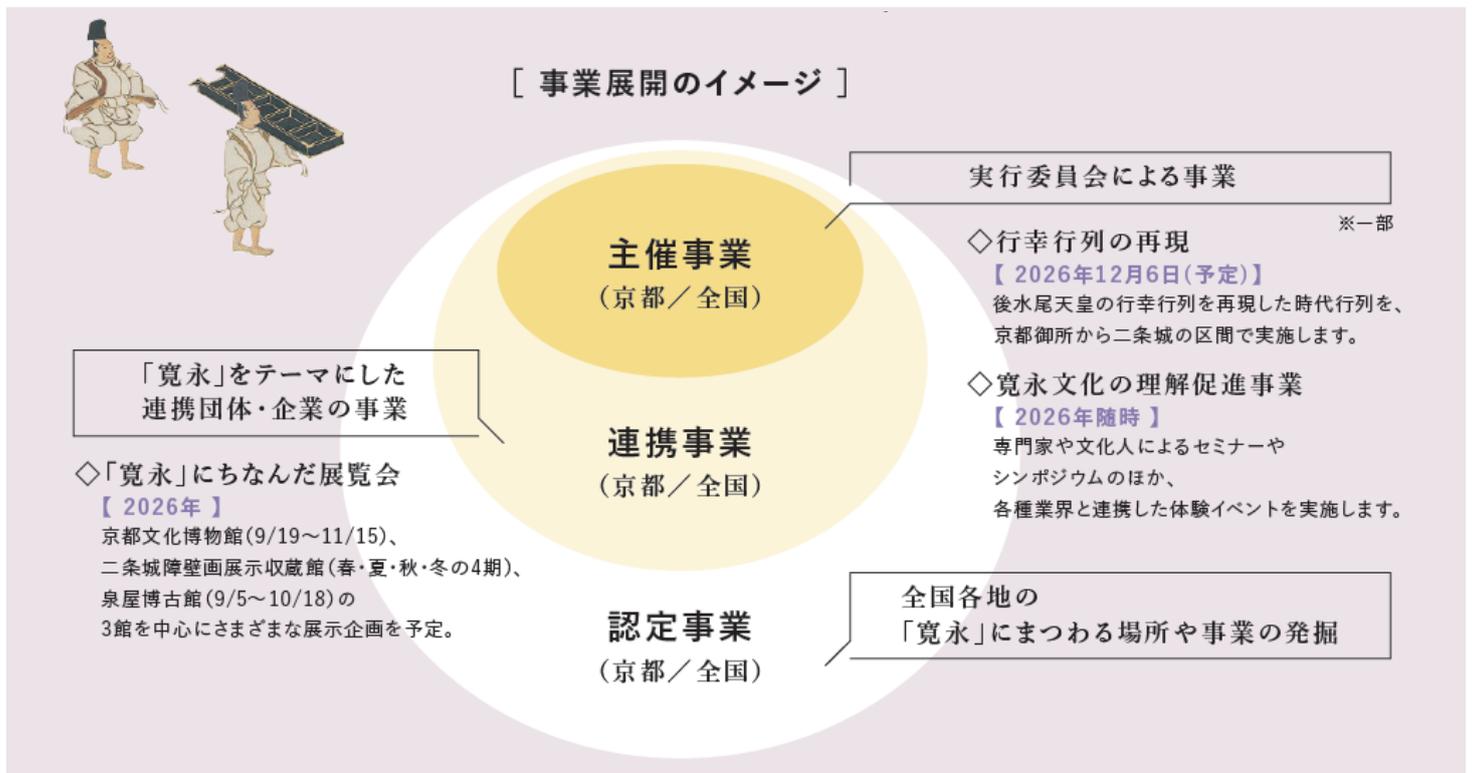
寛永文化とは

16世紀の桃山文化と17世紀後半の元禄文化に挟まれた17世紀前半（江戸時代初期）の文化。本阿弥光悦、俵屋宗達、野々村仁清、池坊専好、近衛信尋など名高い芸術家が生まれました。

寛永行幸四百年祭

四百年祭の目的・意義

日本文化	多彩な文化が育まれ、「日本文化の故郷」とも称される寛永時代。当時は茶道や華道などの諸芸に流派はなく、多くの芸能文化がさまざまな身分の人々に広がりました。そんな寛永時代を振り返り、今とこれからの芸能文化の価値を再確認します。
産業・地域	寛永行幸を機に、京都にはさまざまな産業が興りました。その影響は全国にも拡がり、寛永期創業の企業は現代も多くが活躍しています。四百年祭でもこの活気をよみがえらせ、新しい産業を生み出す契機とします。
平和	徳川家が天下統一を果たした江戸時代。力で競い合っていた大名たちの美しい行列を見た人々は「平和」の訪れを実感。その後の文化や産業の振興につながります。この四百年祭を通して平和の価値を確かめ、世界平和への思いにつなげます。



「寛永行幸四百年祭」ロゴマーク



【制作意図】

後水尾天皇が御所から二条城に行幸された「寛永行幸」は、公武融和を象徴する出来事でした。

御所（公家）と二条城（武家）の関係性は、日本の歴史を動かしてきたといえます。御所と二条城を、地図上で確認すると、二条城が南北軸から東に3度ずれていることがわかります。

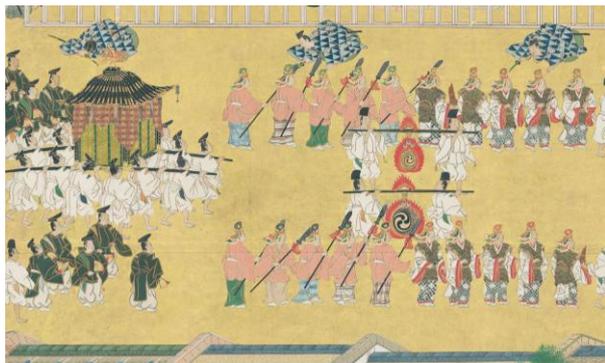
そこで、この3度のずれをロゴマークに表現しました。また、「寛永行幸」の文字は、近衛信尋（後水尾天皇の弟で、行幸の実現に向けて將軍家と朝廷の間をとりもち、大きな役割を果たした）の文字を使用（陽明文庫蔵の書物『寛永三年行幸日記』）しました。

【ロゴマーク制作】

近衛忠大氏（近衛家三十二代当主嫡男／クリエイティブディレクター）

寛永行幸四百年祭

行幸行列再現イベント



京都市指定文化財《二条城行幸図屏風》左隻（部分） 泉屋博古館

寛永行幸初日の9月6日、将軍家光に導かれ、後水尾天皇ら朝廷方が御所から二条城へ赴きました。将軍には全国の大名も盛装で付き従い、そのきらびやかな行列は9,000人に及んだといわれています。その行列の主要シーンを再現する時代行列イベントを、四百年祭のメインイベントとして実施します。

【時 期】 2026年12月6日（日）

【ル ー ト】 京都御所～二条城東大手門（約2km）

【内 容】 行幸行列の主要シーンを数百人規模で再現
楽人による雅楽演奏を再現
一般向けに行列参加者を募集、特別観覧席を設置予定

四百年祭一年前記念イベント 「ミニチュア人形展示」について

一年前
プレイベント

行幸行列再現イベントの風俗・衣裳考証を担当する(株)井筒企画の協力により、同社が事務局を務める「風俗博物館」の1/4スケールのミニチュア人形を活用し、寛永行幸行列の一部を表現した展示を実施します。

【実施期間】 2025年10月31日(金)～12月7日(日)（二条城まつり期間中）

【実施場所】 元離宮二条城・番所

【料 金】 無料（別途入城料が必要）

【内 容】 行列の主要シーンである後水尾天皇、徳川家光の集団を表現した人形（約100体、全長約10m）
背景に京都市指定文化財《二条城行幸図屏風》（泉屋博古館）のレプリカを展示
「寛永行幸四百年祭」及び行幸行列再現イベントに関する動画を放映



【見どころPOINT.1】 鳳輦（ほうれん）

寛永行幸の中心をなすのは、後水尾天皇の御鳳輦を奉ずる行列。天皇をお乗せした鳳輦は、左右近衛府および左右兵衛府に属する駕輿丁の手により厳かに渡御され、その周囲には、退紅の装束をまとった隼人や、楽を奏する伶人らが従いました。その華やかさと厳粛さは、まるで大規模な祭礼行列の趣を呈し、まさに王権の権威と威儀を象徴する光景でした。



【見どころPOINT.2】 牛車

展示手前に配されたのは、将軍家光の御牛車を象った行列です。その先導を務める騎馬の人々は、諸国より上洛した大名を象徴しており、同時に天皇の警護の役割をも担っていました。その威容は、さながら軍勢を思わせる壮麗な武威の行列として、見る者に強い印象を与えたことでしょう。

【行幸行列が描かれた「二条城行幸図屏風」が映像でご覧いただけます】

住友家で秘蔵され、泉屋博古館が所蔵する京都市指定文化財《二条城行幸図屏風》が映像でよみがえります。400年の時を超えてなお鮮やかに輝く色彩、画面いっぱいに広がる壮大なスケール。描き込まれた人物はなんと3,226人。細部に宿るドラマや臨場感を、映像だからこそ感じられる迫力でご紹介します。QRコードから期間限定でご覧いただけます。



京都文化博物館

寛永行幸四百年祭開催記念 特別展「寛永 太平がはぐくむ美」

寛永文化と寛永行幸を軸に、江戸時代前半に花開いた京都文化の粋を紹介します。

会 期：2026年9月19日（土）～11月15日（日）

※期間中、展示替え及び巻替えがあります。

会 場：京都文化博物館 4階・3階展示室（〒604-8183 京都市中京区三条高倉、075-222-0888）

開室時間：10時～18時（金曜は19時30分まで）※入場はそれぞれ閉室の30分前まで

休 館 日：月曜日（ただし、祝日の場合は翌平日休館）

主 催：京都府、京都文化博物館、読売新聞社

共 催：寛永行幸四百年祭実行委員会

協 力：京都市（元離宮二条城事務所）、泉屋博古館、Living History KYOTO

◆章構成（予定）

プロローグ 和偃武一関ヶ原・大坂の陣を超えて

第1章 菊と葵

第2章 復元・二条城行幸

第3章 持続する文化活動

エピローグ



《参内図屏風》 京都文化博物館



《寛永行幸絵巻》（部分） 個人蔵



重要文化財 狩野山楽筆 二条城二の丸御殿〈大広間〉四の間《松鷹図》（部分）
寛永3年（1626） 京都市（元離宮二条城事務所）



近衛信尹書《源氏物語和歌色紙貼交屏風》 陽明文庫



近衛信尹書《和歌六義屏風》 陽明文庫



重要美術品《太刀 銘 備前国住雲次》 陽明文庫



重要文化財《薙刀直し刀 骨喰藤四郎》 京都・豊国神社

二条城

二条城二の丸御殿の障壁画は、後水尾天皇の行幸に先立ち、徳川将軍家が寛永元年から3年（1624～26）にかけて行った大改修の際、狩野探幽率いる狩野派の絵師たちによって描かれました。1982年には、御殿に残る約3600面の障壁画のうち1016面が美術工芸品（絵画）として重要文化財に指定されました。元離宮二条城では、これらの貴重な障壁画を恒久的に保存するため、1972年から二の丸御殿障壁画の模写を行っており、現在、式台、大広間、黒書院及び白書院の障壁画のほぼ全てを模写障壁画にはめ替え、原画（オリジナル）を順次「二条城障壁画 展示収蔵館」に収蔵し、展示公開しています。2026年度は「寛永行幸400年」をテーマとして、寛永行幸の際に使用された二の丸御殿の部屋の障壁画を4期にわたって公開します。

会 期：春期、夏期、秋期、冬期の4期

公開内容： (1) 春期 〈式台〉式台の間
(2) 夏期 〈大広間〉三の間
(3) 秋期 〈大広間〉一の間・二の間
(4) 冬期 〈黒書院〉一の間・二の間

入館時間：9時～16時30分（閉館は16時45分）

※二条城の入城受付は、16時まで

場 所：元離宮二条城内 二条城障壁画 展示収蔵館
(〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地)

問合せ先：京都市文化市民局元離宮二条城事務所
〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地
T E L : 075-841-0096 / F A X : 075-802-6181



重要文化財 狩野尚信筆 二条城二の丸御殿障壁画〈黒書院〉
一の間 《桜花雉子図》（部分） 寛永3年（1626）
京都市（元離宮二条城事務所） ※冬期展示予定



重要文化財 狩野探幽筆 二条城二の丸御殿障壁画〈大広間〉
三の間 《松孔雀図》（部分） 寛永3年（1626）
京都市（元離宮二条城事務所） ※夏期展示予定

【参考】「二条城障壁画 展示収蔵館」の概要

「二条城障壁画 展示収蔵館」は、1982年に重要文化財指定を受けた二の丸御殿障壁画を恒久的に保存するため、二条城築城400年を記念して、2004年3月に竣工し、2005年10月10日に開館しました。当施設は、障壁画が御殿と同じ配置で収納されている収蔵庫の一部を、ガラス越しに鑑賞できる画期的な設計となっています。



泉屋博古館

寛永行幸400年記念特別展「寛永行幸 一花の都の文化人-」(仮)

江戸時代のはじめの寛永3年(1626)9月、徳川秀忠・家光の招きに応じ、後水尾天皇が京都・二条城に行幸しました。その初日には、二条城へむかう天皇や公家衆、奉迎する將軍率いる全国の大名家による史上稀にみる大行列が、京のまちに繰り広げられました。その様子を描く《二条城行幸図屏風》(泉屋博古館)は、絢爛たる貴人のみならず、全国から集い着飾り浮かれ騒ぐ見物人までも活写します。本展では、泰平の世を告げ新たな文化胎動につながった寛永行幸を振り返るとともに、そののち17世紀後半にかけて展開した優美な寛永文化に注目、後水尾天皇、東福門院、小堀遠州、千宗旦、依屋宗達、野々村仁清など、身分を越えきら星の如く輩出した文化人たちの美意識と交流を紹介します。

会 期：2026年9月5日(土)～10月18日(日)

会 場：泉屋博古館 企画展示室 (〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24)

休 館 日：月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)

開館時間：午前10時～午後5時

主 催：公益財団法人泉屋博古館

お問合せ先：泉屋博古館 〈広報窓口 pr-kyoto@sen-oku.or.jp〉

〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24

T E L : 075-771-6411 / F A X : 075-771-6099



京都市指定文化財《二条城行幸図屏風》江戸時代・17世紀 泉屋博古館

行幸初日、天皇や公家衆、將軍や大名らによる大行列を描く。繊細な描写、優美な彩色、高度な記録性、旺盛な風俗表現などいずれも類をみず、近年京都市の指定文化財となった。画面を埋め尽くす老若男女の観衆は、行幸景気に沸く京都の空気を今に伝える。



《小井戸茶碗 銘 六地藏》中興名物 朝鮮時代・16世紀 泉屋博古館東京

二条城改築や造園をとりしきった寛永行幸のプロデューサー・小堀遠州は、「綺麗さび」の大名茶人として後世まで多大な影響を及ぼした。



伝 東福門院《押絵「楊貴妃」》 江戸時代・17世紀 泉屋博古館

美しい織物を切り貼りして、能の一場面を表す。細部まで神経が行き届くこの一点は、徳川秀忠の息女で後水尾天皇の后となった東福門院が茶人千宗旦へ贈ったもの。

いけばな資料館、相国寺承天閣美術館、泉涌寺宝物館心照殿、茶道資料館、野村美術館、八幡市立松花堂庭園・美術館(順不同)など、京都各地で「寛永」に関する展示を予定!

今後のスケジュールについて

「四百年祭」特別看板の設置



(株)ワン・ワールド様のご厚意により、「寛永行幸四百年祭」を記念した特別看板を制作いただき、二条城に寄贈いただきました。

特別看板は、2025年10月31日（金）から、二条城東大手門前に設置し、2026年の四百年祭を盛り上げます。

看板のデザインは、四百年祭のロゴマークをデザインした近衛忠大氏に担当いただきました。

寛永文化講座

寛永行幸や二条城、寛永文化について知識を深めることができる連続講座を、2024年9月より開催しています。

【次回の文化講座概要】

日 時：2025年11月24日（月・振休）

場 所：京都府公館（〒602-0912 京都市上京区 一条下る龍前町590-1）

登壇者：齋藤 慎一氏（東京都歴史文化財団 江戸東京博物館 学芸員）

「徳川将軍家の権威 — 二条城の構造と変遷」

「寛永行幸四百年祭」を応援したい！

寛永行幸四百年祭実行委員会では、以下のとおり寄付などを募集しています。
（詳細はQRコード）



基金で応援

京都文化交流コンベンションビューロー「寛永1626基金」で寄付を募集しています。

ふるさと納税 で応援

京都府の企業版ふるさと納税による寄付を募集しています。

連携・認定事業で 参加

「寛永」をテーマにした独自事業や関連事業を実施していただける企業・団体を募集しています。お問合せ：info@kaneigyoko400.jp

《報道関係者お問い合わせ先》

「寛永行幸四百年祭」広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

TEL：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 EMAIL：kaneigyoko400@tm-office.co.jp